

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	北広島町立壬生小学校		
学校長氏名	松島尚志	栄養教諭氏名	堂面 敦子
職員数	22 名	児童・生徒数	176 名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・児童は食に対する興味関心はあるが、行動は食の好みに左右されているところがある。
- ・給食では残さず食べる雰囲気はできていて、全体として残菜はないが、配膳量に個人差がある場合がある。
- ・給食配膳に時間がかかるため、児童にとって一番身近な給食時間での食育指導時間がとれにくい。
- ・食事のマナーは知っているが、あまり実行できていない。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

重点項目	1. 好き嫌いを減らし、給食を食べこむことができる	2. マナーを守り、みんなで楽しく食事ができる
検証方法	職員による見取り(職員アンケート)	同左
検証項目	①配膳量に大きな差がないか ②児童は配膳された量を食べているか	①配膳時に正しく食器が置けるか ②「横や後ろを向かない」「口にほおばったまましゃべらない」「よくかんで味わう」ことを意識して行動しているか
成果指標	各学期での評価が前学期よりも上回っている	同左
目標値	年度末肯定的評価 80%	年度末肯定的評価 70%

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】 給食配膳の効率を良くして、食事等の時間を確保する取組(重点 1 関連)

- ・担任と連携した配膳時間の指導
栄養教諭が全クラスを毎日配膳指導に回り、その場に応じたポイント指導を行った。担任も配膳に関わり、実態を細かく連携しながら改善方法について一緒に考えた。
- ・委員会児童の呼びかけ
給食委員会で「配膳台の置き方」「給食配膳の流れ」のポスターを作り、各クラスに説明した。ポスター作成時に内容を確認することで、委員会の児童自身の給食配膳の改善につながった。

【取組 2】 千代田ブロック健康教育部会で行う食事のマナーについての取組(重点 2 関連)

- ・健康教育部会員(顧問管理職・各校養護教諭・栄養教諭等)で食に関する実態を交流し、共通してできる、達成度がわかりやすいものとして、「食器を持って食べる」取組を行った。
- ・ブロック共通のポスターを作製し、各校にあわせて活用した。壬生小学校では、クラスに常時掲示(食事時間には黒板に貼る)し、担任や栄養教諭の声かけにつなげた。

【取組3】教科等における食に関する取組

・5年生民泊体験活動

北広島町「ふるさと夢プロジェクト」のなかでの5年生「民泊体験」に協力した。初日の学校泊のための夕食(牛井とみそ汁)・朝食(おにぎりとみそ汁)作りに関する事前と当日の指導を担当とともに行った。献立は家庭科「ごはんとみそ汁」の単元に関連させ、夏休み等に児童が家庭でも実践できるよう、材料や作り方をシンプルにし、衛生的にできるよう工夫した。

・その他の教科等

1・2年生活科で「きゅうしょくのおてつだい」として豆むきを行った。給食の材料に直接関わるため、衛生面だけでなく、丁寧に扱うことも指導の内容に加えた。その他、4年生体育科(保健領域)では、子どもと大人の骨(模型)をもとに成長を実感させ、食事の大切さについて指導したり、5年生家庭科では、5大栄養素の体内での具体的な働きや栄養素同士のつながりなどに触れたりした。

・ブロック内小学校との連携

ブロック内小学校には、給食参考献立とともに、給食だより原稿(まめマメ通信)と毎日の放送原稿(給食一口メモ)を出して活用していただいている。また、要請に応じて各校の食に関する授業にも参加した。今年度はブロック全体で食事マナーについて取り組んだので、その内容にかかわるものが多かった。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

〈給食実施について〉

・タコタコライスについては北広島町の栄養教諭4人で共通献立

「タコタコライス・まめマメサラダ・ほうれん草スープ・りんごゼリー」を組み、同時期に実施した。その他の4品は各地域で実情に合わせて独自に実施した。

・共通献立には北広島町で生産されている主な農産物(りんご・ほうれん草)を使用し、町の健康増進の施策である「まめマメ北広島」にちなんだ大豆や枝豆を使用した「まめマメサラダ」を組み合わせた。

・町内には栄養士のいない学校もあるため、夏季休業中に調理員研修で今年度の5品目について試作を行い、調理作業や味について確認をし、当日に備えた。

・実施当日はクラスに配布する読み物資料に100万食献立のねらいや食材・作り方についての説明を掲載し、各担任が指導をした。

〈その他の取組〉

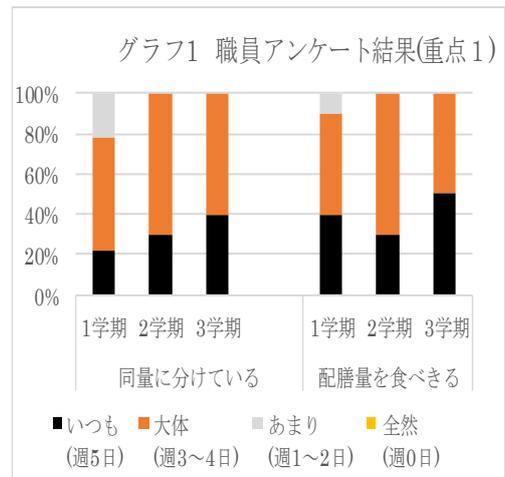
・地域行事である「壬生ふれあい秋祭り」の食品バザーで、保護者や地域の方々に「広島フルーツぷるるんゼリー」を試食いただき、リーフレットを配布した。



5 取組に対する成果と課題（成果○課題●）

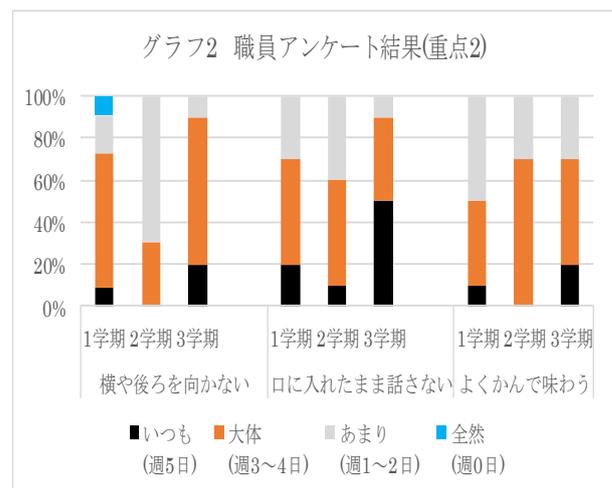
重点1について（職員アンケート年度末肯定的評価：100%）…グラフ1参照

- 「(配膳が)終わればいい」から、「班で協力し、手際よく配膳すれば、早く食べ終わって昼休憩に外に遊びに行ける。」「早く配膳できてうれしい」など、児童の意識の変化が見られた。
- 配膳の段取りが身につく、手際がよくなることで、きれいに盛り付けできるようになってきた。
- 児童委員会活動や朝会指導を使って全校に呼びかけることで、職員だけでなく児童も共通認識ができた。
- 給食時間に食に関する指導ができるクラスが増えた。また、食べ方もあわせて指導することで、給食時間内に食べきれるようになった児童が増えた。



重点2について（職員アンケート年度末肯定的評価70~90%）…グラフ2参照

- ブロック全体で呼びかけることで、児童だけでなく担任や教科担にも姿勢やマナーについて指導していることを意識してもらうことができたり、学校間の連携にもつながった。声をかけると姿勢などを意識して食べることができるようになった。
- 児童は食事マナーについての知識はあるが、食事時間中持続することが難しく、目標値を達成できなかったため来年も継続して指導する必要がある。



6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・給食時間に具体的なマナーなどについて指導を行うことは継続していく。
今年度は「時間」にこだわった指導内容だったので、来年度は「よくかむ」「味わう」ことにも重点をおいて指導していきたい。
- ・家庭や地域への啓発として、給食だよりを配布している。今年度は不定期の発行だったので、定期的に発行できるよう努め、児童の変化も伝えていきたい。